

朝霞市版スーパー・シティプロジェクト ～人と緑が生きるウォーカブルなまちづくり～

概要 官民連携による公園や街路空間等の利活用や、自然が持つ機能の最大限の発揮を軸に、『居心地が良く、歩きたくなるまち』と、『魅力的な商業エリア』の創出を図る。そのため、①道路空間の再構築や低未利用地の活用を通じた、人中心のウォーカブルな空間の創出、②地域のシンボルとなる豊かな自然の機能を活かした、グリーンインフラの整備、③災害時にも機能するフェーズフリーなまちづくり に取り組む。

課題

- ・歩行空間が不足する駅前通り等について、歩行者中心の道路空間へと再編し、安全で快適に歩ける道へ転換する必要。
- ・シンボルロードや黒目川など地域のシンボルとなる緑の拠点の魅力向上や、グリーンインフラの考え方を取り入れた公共空間の整備を行うとともに、駅周辺からの回遊性の向上が必要。
- ・災害時に活用可能なエネルギーの確保や、防災情報の効果的な発信を通じた、災害にも強いまちづくりが必要。

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	・ウォーカブルなまちづくり	長期(10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路空間の再配分による歩行者中心の道路空間整備 ・緑の拠点であるシンボルロードのほこみち指定に基づく賑わい向上や、黒目川の魅力発信 ・公共空間を活用した多様なイベントの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーン30プラス等交通安全対策の実施 ・歩行者利便増進道路指定に基づく休憩施設や利便施設の設置 ・公共空間を活用したイベントの開催 ・商店街の活性化支援
スマート	・ICT技術を活用した情報伝達や移動手段の充実	長期(10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルサイネージ等を活用した地域イベント情報や災害情報の発信 ・ビッグデータやデバイスを活用した交通安全対策と回遊促進 ・シェアサイクルサービスの高度化 ・都市計画情報等、まちづくりにかかるデータのオープン化 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害情報のデジタル化 ・デジタルサイネージの導入・運用 ・ビッグデータの取得・活用 ・シェアサイクルサービスの高度化 ・GISの導入・活用
レジリエント	・災害にも強いフェーズフリーなまちづくり	長期(10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンインフラの機能を取り入れたインフラ整備 ・再生可能エネルギーを活用した災害時の電源確保 ・主要道における無電柱化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンインフラの導入にかかる技術支援(雨水貯留・流出抑制施設等) ・災害時にも活用可能な電源供給施設の設置 ・簡易な無電柱化に係る技術支援

